

「VI」10月6日(木)丸子の渡し場辺り・小杉御殿跡・中原街道を歩く

(集合; 東急東横線「新丸子駅」改札口9; 50分厳守同時出発)

(1) 行程; 「新丸子駅」→丸子橋渡し場辺り→小杉御殿→旧名主長屋門→明治の醤油づくり→小杉御殿と并の道→小杉御殿の御主御殿跡→小杉陣屋と次大夫→御蔵稻荷と多摩川→西明寺→小杉駅と供養塔→庚申塔・大師道→小杉十字路→高元寺・寺子屋→二ヶ領用水・神地橋→泉沢寺→旧中原村役場跡→木月堀→街道と地藏尊→南武線の歴史・JR「中原駅」。

(2) 食事場所; 中原駅付近「」。TEL; 044—。

中原街道; 江戸虎ノ門を起点として三田、馬込、丸子、佐江戸、瀬谷、用田、を経て相模川を越え、平塚を結ぶ道江戸城へ運ばれる、お酢街道、江戸猿町を通っていたので猿町街道とも、江戸間道(カトウ)、小杉ではこやし街道相州街道とも。

1・丸子橋渡し場辺り(昭和10年丸子橋完成)

田畑に使う下肥を手に入れる為、1日掛かりで東京五反田や大崎、三田辺りまで荷車を引いて出掛けた農家の交通機関は丸子橋が完成するまでは唯一の交通機関。渡し場近く迄、松原通りの家々が並び、東横線鉄橋から上流にかけて青木根集落もあり、砂利取り、舟づくりの人々が多かった様だと言われ、数々の言い伝えもあり、昔から「特別な場所」とされていた。此処から埴輪なども出土し、古墳だったことが大正10年の築堤工事時分かった。此の工事を境に青木根、松原の集落は河原から姿を消した。

2・旧名主家と長屋門(陣屋町バス停そば・代官から賜ったと言う長家門)

先祖後北条氏に仕えたと言う旧家、安藤家・江戸時代割元(ワケモト・名主代表格)名主。長家門内側に高札(明治4年政府が出したもの?)が飾られている。当期の高札場があった場所は西明寺参道付近と言う。

定

1. 人たるもの五倫の道を正しくすべき事身内の祝い事

1. 鰥寡孤独（かかどろ・世に頼りない人）廃疾（不治の疾病）のものを憫（アハレ）むべき事

1. 人を殺し、家を焼き、財を盗む等の悪業あるまじき事

慶応4年（1868、明治元年？）3月太政官（財）川崎市文化財団川崎ガイド中原街道ルートより。
○旧原家主屋跡地；原家9代目文次郎は、明治24年から22年の歳月をかけて、此の地に母屋を完成させた。総構造りの母屋は、高度な建築技術を屈指した当時を代表する建築物として平成13年市重要歴史記念物に指定された。11代目正巳は多摩「川崎市立日本民家園」移築復元によって、後世に先人達の智恵を学ぶ屋舎の活用望まれた。

3・明治の醤油づくり

小杉、石橋醤油店明治3年からキッコウ文山（ブンザン）商標・中原街道沿いの神地（ゴウジ）では、木月堀の水を利用した朝山家の朝陽（チヨウヨウ）や・小川家のふんどん東陽など。木月堀（ニヶ領用水水支流・水綺麗だったので醤油製造に使用された）。

4・小杉御殿（慶長13年＝1608仮御殿建立に始まる、寛永17年＝1640増築）とがき道
西明寺近く・約1万2千坪＝4万㎡・表御門、御主殿、御殿番屋敷、御賄屋敷、御蔵、御馬屋敷、裏御門など建ち並んでいた。西明寺前で左へ直角に曲がり、すぐ先で今度は右に直角に折れている道は、御殿の守りのがき道。御殿中心的建物「御主殿」跡に御主（守）殿稻荷（小杉御殿町）がある。

5・小杉御殿跡（家康、秀忠、家光三代鷹狩り情報視察の際は休憩所・万治3年-1660年東海道整備存在薄れる）

中原街道は脇往還となるが、沿線の物資や農産物輸送の大切な街道となり、今でも旧家、古い商家、地名、石仏、石碑など残っている。明暦元年（1655）から万治3年に品川東海寺と上野の弘文院に移築された。

6・小杉陣屋と次大夫（ジダイウ・西丸子小学校前墓所に次大夫碑残る）

徳川家康が最初に力を入れたのは街道整備と米の増産でした。当時多摩川沿いの村々は、川の流れに接しながら水利が悪く、草原、荒れ地、砂礫の河原ばかりで、4、5軒から十軒位の集落が散在する状況でした。この様子を見て用水工事による新田開発の必要性を家康に進言し、工事の実施を任されたのが、代官小泉次大夫です。慶長2年（1597）稲毛、川崎（右岸・ニヶ領用水）と世田谷、六

郷（左岸・六郷用水）の合わせて4ヶ領に及ぶ用水建設が始まった。完成迄14年を要す難工事だった。次大夫は右岸の小杉と左岸の粕江に陣屋を設け、工事の指揮監督に当たった。小杉の陣屋は小泉陣屋後に小杉陣屋と呼ばれ、現、小杉陣屋町につながっている。

7・御蔵稻荷（小杉御殿御蔵辺り）と多摩川（当時はこの直ぐ北側を流れていた・当時の川筋は現等々力緑地）

稻荷の石段の1つに「野村文左衛門」銘刻、石橋として使われていたもの。文左衛門は江戸後期の肥料商。農民への奉仕と販路拡張の為に街道周辺の村々の木橋や土橋を石橋に変えていった。今でも文左衛門の「八百八橋」と語り継がれる。

8・西明寺（真言宗智山派・本尊、大日如来・寺宝、十一面観世音菩薩＝伝行基作・弁財天＝出世弁天）・小杉学舎

中興の祖北条時頼伝説有り、出世弁天境内に祀る。国家安全の文字の石碑（天保年間日本外交をめぐって揺れ動いた時期、1830～1844）。明治六年「小杉学舎」本堂を借りて誕生、明治三十四年参道脇に尋常中原小学校が出来、同所に青年団集会所としても使用され当時の「二宮金次郎像」今もある。

9・小杉駅と供養塔

江戸後期小杉御殿・寛文13年（1673）宿駅指定（東海道川崎宿五十年後）。峠道「つけぎや＝付木屋・火付けに使用」店の横に供養塔（左側面 武州橘樹郷稻毛領小杉駅・土台には 東江戸、西中原）の文字・付木屋先祖鈴木と右衛門文字刻む。

10・庚申塔（100年位・屋号油屋の門・6軒講中管理）と大師道（峠道近く・東江戸道、西大山道、南大師道府中街道分岐・大師道）

11・小杉十字路

江戸期、大名行列・旅商人・明治期、府中街道交差点、料理屋・旅館・劇場・人力車・床屋・医院・郵便局など「ロンドン・パリ」と呼ばれる活気、明治33年鉄鉾泉（東京から仕入れた原液使用湯治用風呂）・大正2年、中原街道と府中街道を乗合馬車走る十字路は停留所（ラムネ・酒・料理・飲食・馬車1時間毎）、大正7年自動車に変わる・東横線、南武線開通（no16南武線の歴史ご参照）。

12・二ヶ領用水と神地橋（ゴウバシ・地名神地は耕地か春日神社の土地、神地シテからの変化か）

多摩川の水は中野島と宿河原の二ヶ所（二ヶ領）から取り込まれ、高津区久地駅近くで合流し、「久地分量桶」に導かれ、此处で4つの掘りに分けられていた。川崎堀はその本流で更に井田堀（上小田中）・木月堀（宮内）・平間堀（市ノ坪）等で、井田、今井、北加瀬等稲毛百村村を潤し、良質の稲毛米と呼ばれ江戸の人々を喜ばした。二ヶ領用水本流が中原街道と交差する処に神地橋（昭和12年コンクリート橋に）がる。

13・泉沢寺（浄土宗京都知恩院末・宝林山運光院・本尊、阿弥陀如来、足利期作・寺宝、十二神将像四体江戸期作、古文書天文22年1553吉良頼康書市文化財、鷹墨画3軸海北友松筆、梅墨画谷文晁筆）

文明年間（1469～87）武蔵世田谷城主吉良頼高の菩提寺として烏山に開創。天文18年（1549）現在地に移転再建。徳川幕府より20石朱印賜り末寺11ヶ寺を持った古刹。吉良氏は後北条氏のもとで全盛時代の勢力は、世田谷から川崎中部、横浜蒔田町一帯まで。門前市盛ん・冬の世田谷ボロ市（今尚盛ん）・夏の泉沢寺施餓市（今は露店2、3軒の淋しい）。

14・旧中原村役場跡（平屋で瓦屋根の役場があった）

市制町村制施行に伴って、明治22年中原村誕生（橘樹郡上丸子、小杉、宮内、上小田中、下小田中、新城の6ヶ村合併村名入札方式中央を通る中原街道にちなんで中原に決定）。役場も中間に実測して建てられたと言う。昭和8年川崎市に編入され、町名中原は消えるが、昭和47年川崎指定都市時中原区となり復活。

15・木月堀（二ヶ領用水支流で現在は暗渠で水見えないが当時の水は特に澄んでいて綺麗醤油造りに利用された）と「くらやみ」（現、原家はかつて地域の名主をつとめた旧家、地元では昔から広い屋敷でこんもりと茂っていたので「くらやみ」と呼んだ）

16・街道と地藏尊（藤田屋酒店脇の祠の地藏尊・井田堀など）

17・南武線の歴史

南武鉄道（株）により昭和2年、川崎、登戸間に開通したのが始まり。昭和4年立川まで伸びている。この鉄道は砂利採取や奥多摩の石灰石輸送に力を入れるなど、当初貨物輸送が重視されたため、駅はその頃の町はずれに設けられた。昭和10年代、時価の安さと駅中心の便利さあって、工場群が形成（日

本電気・富士通信機製造等)。昭和19年、国有化され、国鉄南武線になる。旅客専用線となるが、不採算路線であった。しかし、現在は宅地化が進みＪＲ東日本の「黒字路線」となっている。

